

津田学園高校（1・口頭発表）

宿場町・桑名観光グルメガイド～ユニバーサルデザインからSDGsへ～

要旨

視覚障がいのある方が桑名を観光する際、どのようなガイドがあると役に立つかを探究するうち、パンフレットや触地図、音声ガイドの作成、インタビュー等を通して、ユニバーサルデザインという考え方に会った。さらに、それがSDGs「11 住み続けられるまちづくりを」につながるという考察・結論を得た。

1. 研究の動機と目的

展覧会等では、音声ガイドが当たり前使用前に使用されるようになってきた。視覚・聴覚、両方からの情報で理解は深まるが、視覚障がいのある方は、展覧会や観光においてどのように楽しんでいるのか疑問を抱いた。私の生まれ育った桑名市の観光を楽しんでもらうために、ガイドを作成することを目的とする。

2. 方法

①ユニバーサルデザインとは何かを調査。②桑名の観光パンフレット、触地図、音声ガイドを作成。③和気信一郎先生へインタビュー。④これらの結果を考察して、ユニバーサルデザインからSDGsにつながる結論を導き、今後の課題を見つける。

3. 結果

ユニバーサルデザインで作成された京都のパンフレットを参考に、桑名の観光グルメガイド、触地図、音声ガイドを作成した。視覚障がいのある方だけに限らず、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた誰にでもわかりやすいガイドを作成することができ、インタビューによって更に何が必要かを理解することができた。

4. 考察

視覚障がいのある方の観光は、ガイドヘルパーの支援に拠るところが大きく、多くが「受動的」になってしまい「主体的」に楽しめる場所が限られてしまう。ユニバーサルな在り方を目指し、主体的に観光を楽しむことができる「ユニバーサルツーリズム」を実現することが重要だと考える。「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」の違い、「ユニバーサルデザイン」と「SDGs」の共通点を知り、観光地側が「心のバリアフリー」を考え、ハード面・ソフト面を整備することが重要である。ユニバーサルデザイン観光を奨めることはSDGsにつながると思う。

5. 結論

これからの時代、バリアフリーではなく、ユニバーサルデザインを取り入れ、最初から「誰もが安心して暮らせる社会」を想定することが必要であり、今後の大きな課題である。それがSDGsにつながる。一番助かるのは「人」であり、人の考え方、行動こそが社会を変えるのだ。

6. 参考文献

見ないで楽しむ京の旅

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000100830.html>

ユニバーサルデザインとSDGsに共通する考え方

<https://benesse.jp/sdgs/article8.html>